

# 朝日 俳壇



〈日曜日のプローチ 46〉 Junaida

## 川野里子選

さらさらのなみだのようにはなみずがぼたり  
とたれてはつとして春 (流山市) 汐入 首佳  
新しい苗字で呼ばれゆつくりと振り向くから  
くり人形みたいに (富山市) 松田 梨子  
夜釣りの帰りの夫から匂う潮の香よ幸せの香は  
かくも濃きもの (佐世保市) 近藤 福代  
棺の蓋が炬前罪がカロートが静かに閉ぢてわ  
たしはよもめ (仙台市) 二瓶 真  
どの蘭もこの子と呼ばれわらわらかき光と声の  
会場巡る (京都市) 八重樫妙子  
「壮絶な怒り作戦」壮絶な怒りをもって画面  
を見つむ (観音寺市) 篠原 俊則  
機嫌よく喜らしたいわと我言えはそうはゆか  
ぬと夫の即答 (上田市) 山野井よし子  
長針のコトリと動きし花時計言導犬は伏せて  
待ちおろ (市川市) 山崎 蓉子  
老いたればベットボトルの蓋固く命の水に春  
を待ちおろ (加古川市) 畑 啓之  
追いかけて脱げしサンダル濡れにけり振り向  
く君に手は届かずに (南相馬市) 朝倉 睦美

【評】一首目、何とシンプルで澄んだ春の実感だろう。二首目、夫の姓で呼ばれる違和感。「からくり人形」が効いている。九首目、蓋が固いのも大切な命の水だから。十首目、津波で亡くした人を追う夢か。サンダルだけがリアルで悲しい。

## 佐佐木幸綱選

「しはらひはPayPayで」と言う團児等のま  
まごとも遠のく昭和 (戸田市) 蜂巣 厚子  
老人ホームの面会時間終りなり鯛焼のぬくも  
り父は離さず (市川市) 山崎 蓉子  
「キャラクター柄のパンツはもう嫌だ」六歳、  
終わりを積み重ねてく (朝霞市) 小峰 拓朗  
百年をかけて拓いた林檎畑継ぐ人を「さす貴ひ  
手をらす (富士市) 村松 敦規  
梨子ちゃん結婚すると知る朝は家族みんな  
で新聞囲む (奈良市) 山添 聖子  
買ったまま一度も使わぬ便箋に夫の死を書き  
夫の友らへ (名古屋市) 植田 和子  
登校を渋る子どもを諭す (今宵も母を風田  
場へさそ (稲沢市) 伊藤 京子  
金曜の夜のホームに並び立つ金曜の夜たなの  
顔たち (横浜市) 富尾 大地  
味噌汁の具にトマト入れ煮てみたり深き滋味  
あり病妻思ふ (埼玉県) 吉川 英治  
☆奨学金返しをへぬと言ふ息子すこし眉毛をあ  
げて言ひたり (神戸市) 松本 淳一

【評】一首目、ままごとを取り上げて昭和を照らした斬新さに感心。二首目、「父」は面会時間の間ずっと鯛焼きを抱いていたのだから。三首目、気に入っていたパンツが急に嫌いになったのだ。幼児を卒業してゆく子を表現して的確。

## 高野公彦選

老人の年に一度の大仕事心はずまぬ確定申告  
訳ありのりんご・れんこん籠に入れ懐都合の  
訳ありが買う (東京都) 松本 秀男  
水点下二十度の街の発電所狙いミサイル撃ち  
込むプーチン (下野市) 若島 安子  
☆他の石をほじき飛ばして中央に居座るカーリ  
ングのやうな大国 (朝霞市) 岩部 博道  
トランプの無理難題をいさむるは米国民の良  
識が死か (京都市) 五十嵐幸助  
制服の採寸に行く如月の日曜日から春は始ま  
る (奈良市) 山添 聖子  
一回も帰って来んわと夫くし五年の友は笑  
いを誘う (福知山市) 森田喜代子  
徴兵の対象となる若者が高市支持とは不思議  
なりけり (狭山市) 朝日 和信  
元気で手書きを添えた年賀状 訃報の知ら  
せ一月に届く (大分県) 伊津野富美子  
体育館で六年生を送る会 三年生からメダルを  
もらう (奈良市) 山添 聡介

【評】1首目、あの仕事は面倒で少しも楽しくないですね。2首目、「懐都合の訳あり」が面白い。3首目、冷酷無比なプーチンの軍事作戦。4首目と5首目は、「アメリカ・ファースト」で、したい放題の大統領に対する深い疑念を詠む。

## 永田和宏選

アカゲラの赤き帽子のうごくとき音のあかる  
し春広瀬川 (仙台市) 沼沢 修  
群来ありて小樽の涙の白き波 鯨寄せ来る春  
の訪れ (さいたま市) 永田 知風  
悲しいという字はインギンチャクに似て 襲  
だけをたな波に揺らして (佐伯市) 河北 苗  
テヘランが燃えてる日の東京はマラソンの  
人銀ぶらの人 (横浜市) 白川 修  
☆他の石をほじき飛ばして中央に居座るカーリ  
ングのやうな大国 (朝霞市) 岩部 博道  
政治家に届いただろうか「ママ戦争止めてく  
るわ」の本当の意味 (橋本市) 秋月 晶江  
MADE IN JAPANの武器で人が死ぬ春は  
もうすべへばすべへに (高岡市) 池田 典恵  
☆奨学金返しをへぬと言ふ息子すこし眉毛をあ  
げて言ひたり (神戸市) 松本 淳一  
人力車小舟行き交う堀端のさげもん吊るす古  
き綾屋 (小城市) 福地 由親  
余所行きのことを絵馬に書いてをり当然他  
人が観るものとして (横浜市) 滝 妙子

【評】沼沢さん、第四句「音のあかるし」が妙。永田さん、産卵のため鯨が押し寄せ、精子によって波が白くなったと言う。北海道の風物詩。河北さん、成程インギンチャクに似ているかも。白川さん、戦火から遠い国にいる申し訳のなさ。

## 短歌時評

### 「歌集の民主化」の先に 山崎 聡子

2月、東京・下北沢のギャラリーで開かれたブックマルシェに立ち寄った。ここでは本や冊子を扱う販売会を毎月開催。今回は「短歌を詠んだら歌集を編もう」と題し、同名のワークショップの卒業生が制作したカラフルな歌集が並んだ。書店員らのグループが企画し、歌書の出版に携わる編集者・筒井菜央がナビゲーターを務めるワークショップでは、参加者たちが講師のアドバイスを受けながらミニ歌集を制作。講師には、穂村弘、

同日には歌集『卵降る』を出版した小島と担当編集者である筒井のトークが行われ、歌集の「核」となる方向性をどう定めるか、デザインや書籍流通のしくみに至るまでの実際が参加者からの質問に答える形で開示された。そのなかで短歌に「編集」的視点が入りにくいことが言及されたが、これまで短歌の内側に欠けがちなのは、「誰に何を、どんな形で届けるか」という視点だろう。自らの内的動機を煮詰めたうえで読者に何を投げ出すか。ワークショップの参加者が問いかれたことは、そのまま短歌の創作に携わる全員に向けられている。(歌)

第43回兜太現代俳句新人賞 現代俳句協会主催。埼玉県の内野義彦さん(38)の「雨滴の窓」(50句)と、神奈川県の高田祥聖さん(39)の「みころ」(50句)に決まった。夏井いつき著「夏井いつきの俳句添削事典」初心者のありがちなミスを指摘し、解決策を示す。添削例608句を収録。俳句・雑感チャート付き。(朝日出版社・2090円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。